
錬金術士と使い魔な猫・番外変

生野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鍊金術士と使い魔な猫・番外変

【Zコード】

Z9786T

【作者名】

生野

【あらすじ】

『鍊金術士と使い魔な猫』の番外編。アイテムや世界観に関する解説、短編にするには中途半端すぎる会話集など。気まぐれ更新です。

アイテム図鑑（前書き）

イメージとしては『アスのアトリエ』のアイテム図鑑的な。由梨と理久の両サイドからアイテムを解説します。

【サイラ】

お米みたいな実。うまく料理すればパエリアとかできそうなんだ
けど、色が紫なのがどうにも…。（由梨）

南方で野菜として栽培されている。見た目や利用法はインディカ
米みたいな感じらしい。（理久）

【月の欠片】

純度の高い水と月光が魔力で結晶化したもの。放つておくと薬効
が消えるので採取したら早めに使う（理久）

黄水晶っぽい結晶。薬の材料にも使つけど、私的には手ごろなビ
ーズ代わり。（由梨）

【満月のしづく】

鍊金術の必須アイテム『原質溶液』を作るための材料のひとつ。
『水』の性質を担当しているらしい（理久）

満月の夜にしか取れない夜露。満月じゃないと意味が無いらしい。
なんでだろ？（由梨）

【原質溶液】

調合の必須アイテム。さまざま元素を溶かし込んだもの。老舗

のタレの「」とく継ぎ足して作る。（理久）

調合の必須アイテム。これが作れて一人前の鍊金術士なんだけど、あたしと理久は一人がかりじゃないとこれを作れない（由梨）

【黄金のリング】

食べてよしパックにしてよし。まさに美肌の味方！問題は値段が高いことかな。（由梨）

化粧品の材料として使う「リング」。そういうえば北欧神話では黄金の「リング」は不老不死の源だ。（理久）

【シャオム草】

水につけておくと泡立つようになる。シャオムは泡って意味なんだって。（由梨）

子供のイタズラに使われる草。洗浄系アイテムに使う。（理久）

【ローズ】

バラの花。バラの割に色や形が地味め。ハーブとして使う（由梨）
バラの花。薬の材料向けに改良したら、どうにもパッとしない外見になってしまった。（理久）

【ワイン】

ふつーの赤ワイン。リュリュがたまにお裾分けしてくれる（由梨）
赤ワイン。ただし原料はブドウよりブルーベリーに似ている（理久）

(久)

【猫まねき】

猫に好かれるようになる香水。理久には効かない。（由梨）

猫用に調整した媚薬。師匠は何を考えてこんなもの発明したんだ
か。（理久）

おしゃつ夫婦と使い魔な猫（前書き）

もしもネタ。アーロンと由梨がくついたら？ とこう方向です

おしゃつ夫婦と使い魔な猫

夫の名はアーロン。妻の名はコーリ。『ごく普通とは言いがたい』人は、『ごく普通とは言いがたい出会い方をし、ごく普通かもしけない恋愛をして、『ごく普通……』と言うのは何かおかしいが結婚した。そんな突つ込みどころ満載の夫婦だが、何より普通じやないのは。

妻は異世界人だった。

朝、同居人が帰つてくると夫婦の一戸は始まる。同居人はワケありで日中は動けず、また、妻と長時間離れているのは不信がられる立場にあつた。『そんな事情でもなければとつと逃げてる』とは同居人のボヤキだ。

「起きやがれ万年新婚ボケ夫婦！ 夜お明けんぞ！」

主寝室のドアがヤクザキックで蹴られる音で目を覚ます。どう考
えても爽やかとはいがたい目覚めのはずだが夫婦には関係ない。
目が覚めたときに視界に入るのがお互いであればそれでいいらしい。

「む……おはようございます、コーリ」

「おはようございます、アーロンさん。すぐご飯の準備、はじめますね」

「いや、もうすこしこのままで……」

朝のいちゃつきをはじめよつとすると、それを察したように再び
ドアが蹴られる。

「おら、起きろ！ アーロン、領主に呼ばれてんのうが！ 由梨
も依頼の期限近いんだからいちゃついてる暇があつたら動け！
もちろんドアの向こうにいる同居人は夫婦がどのような会話をし

ているのかは聞こえていない。だが妻のほうとは生まれた頃からのつきあいだ。行動パターンなど熟知していた。

ようやく夫婦が起きてきたところで、同居人の体に異変が起る。服だけを残して姿を消し 服の中から鋭い目つきの猫が現れた。これが同居人の『事情』。口がでている間は猫に変身してしまった特異体質。変身してしまった同居人を妻が抱き上げた。

「おはよう、理久」

「おー、おはよ。とつととメシにしてやれ。私は寝る」

不機嫌そうに言つて、猫はするりと妻の腕の中から逃げ出した。

昼。万年新婚家庭の離れにある工房はため息で満ちる。

「アーロンさんが帰つてくるまでまだ五時間もあるよう〜〜〜」

「ああはいはい。調合ミスんなよ。爆発起こすぞ。あと、ワインを

三滴、蒸留水百で薄めてフラスコの中に入れる、だとぞ」

異世界人の妻は公用語の読み書きがせいぜいだ。鍊金術書に多く使われる古代語や神代語はおぼつかない。そのため、レシピの通訳は同居人の仕事だった。猫の姿でページを繰る姿はなかなかにシユールである。

「理久のなぐさめ、心こもつてなーい。」

「なぐさめですらいないからな。大体何が悲しくて四十路男と幼馴染のラブシーンを見せつけられにやならん。しかも毎朝毎晩！」

「ら、ラブシーンだなんて……うわあ〜」

何を妄想したのか、妻がフラスコを激しく振り始める。途端にフラスコから怪しい煙が出てきたので、猫はさつやと窓から逃げ出した。

数秒後、工房から爆発音が響き、周囲の地面を軽く揺らした。

夫が帰つてくると、万年新婚家庭の夜が始まる。日が落ちると同居人の姿は人間の姿に戻る。その時点できつさと採取なり調べ物なり言い訳をつけて逃げ出したい同居人だが、妻がそれを許さない。『みんなで夕食』は妻的ルールだつた。妻が料理上手なのは知つてゐる。問題は、夕食のときに繰り広げられる会話だ。

「兄からまた言われてしましましたよ。早く子供の姿を見たいそうす」

「う～ん、あたしもアーロンさんとの子供ほしいけど、まだ新婚気分味わいたいですっ」

「そうですね、ゆっくりいきましょうか」

「……。」

会話に横槍を入れたところで惣氣に巻き込まれるのは判りきつてゐる。だから、すでに結婚五年目だらうという突っ込みはスープと共にのどの奥へ流し込んだ。

シュタインベック伯の弟夫婦は、領地でも有名なおしどり夫婦だ。二十歳の差がありながらほのぼのとしたその空氣は領民の心を和ませる。

しかし、その陰で妻の使い魔……もとい同居人が常に胸焼けに悩まされていることを知る者は本人以外にいなかつた。

おしゃつ夫婦と使い魔な猫（後書き）

もうバカッフルネタは書くまいと後悔しています

光を喰らひ（前書き）

もしもシリーズ第二段。【もしもアーロン×理久だったら】
トバージョンです。
コメディの欠片もありません。

爵ルー

豪奢なソファに縛られたアーロンに対するは、粗末な木の椅子に座る敵軍の指揮官。軍服、髪、そして顔の上半分を覆う仮面。それらは全て黒一色。かの軍を指揮する青年はその顔を見せない。噂によれば二十歳そこそこで何故か夜にしか姿を現さないのだという。

「青年では、なかつたわけですか」

「へえ、声を出さなくても判つたか」

仮面の人物は椅子から立ち上がり、アーロンの目の前へ歩み寄った。悠然とした仕草で外された仮面の奥から探し続けていた漆黒が見え

「久しぶりだな、学者馬鹿」

「リック殿……」

「招待の方法が手荒だつたのは謝る。拉致つて形じやなきや仲間たちが納得しなかつたんだ」

わずかに苦笑をにじませたその姿を懐かしいと感じた。

三年前。アーロンの実家にある領地で大規模な火災があつた。周辺に人がほとんど住んでいない森が全焼しただけだつた。全焼した森からは、この森に住んでいた隠者と思われる遺体が見つかつた。

二年前。リュース王国の北にある小国でマレビトの末裔たちが反乱を起こした。すぐに鎮圧されると思われたが、やがてマレビトたちは国を制圧。国名をスコルと変える。新制権はリュース王国国境の警備を増強した。

一年前。事態を重く見たリュース王家は、祈りの神子を中心とした使節団を派遣、対話による和解を求めるも交渉は決裂。祈りの神

子は人質となる。気がつけばリュース王国はのど元に刃が押し当てられている状態になっていた。そしてスコル軍が宣戦布告らしき文書を突きつけたのは三ヶ月前のこと。

そして今日、富庭魔術師アーロンは城から帰る途中で何者かに拉致されたのだった。

彼女の相棒と祈りの神子は無事らしい。今は拠点で負傷者を看護していると言った。

「人質って立場取ってるけど同胞だよ。当然だろ、彼女も被害者だ。そうだ、御者と従者も怪我させてしまったからな。一人に任せてくれる」

自分たちの敵は、あくまでも召喚魔法を命じた者たち。そう付け加えて理久は笑う。

「故郷を、家族を、立場を
　　私に至つては本来の姿さえ奪われたんだ。それなりのスジを通せつて言つてもバチはあたらないだろ？……ああ、勘違いすんな。お前にや求めてない。たかが魔術師ひとりにできることなんて知れてるからな」

アーロンに責任は求めない。かつての彼女と同じセリフだが、意味が違うことは判つた。

「召喚魔法のノウハウとさまざま条件を持っているのは、リュース王国だけだ。世界に散らばるマレビトたちにとっちゃ、諸悪の根源だな」

確かにその通りだ。マレビト召喚という切り札があるから、リュース王国は侵略されることなく強い力を保ち続けている。リュース王国に害をなせばマレビト召喚の技術が失われるかもしれない。それは人が武器を一つ失うことを意味している。ただ、この世界の人々はマレビトの事情など考えたことは無かつた。ただ過ぎた力に恐れるのみ。

【マレビトに害なすものは破滅する】……この言い伝えはある意味正しい。だから人々は積極的にマレビトを攻撃しない。ただ遠ざけ、忌避し、孤立させるだけだ。だが、それは直接的な攻撃よりも深く、マレビトたちに傷を残す。そうして孤立したマレビトや子孫たちが作つた集落。それがスコル軍の前身だった。

「だからその辺のことを始末つけるつて要求しただけだよ、私たちは。そしたら、こんな返事が来た。『不当な暴力に屈しはしない。リュース王国は貴君らの邪悪な野望を全力で阻止する』……アホだアホだと思つちゃいたが、ほんとーにアホだなあ、あのオヤジ。自分の不始末、全部棚に上げてやがる」

理久は楽しげに笑う。その声はどこか狂氣じみていたが、瞳はいまだ正気そのものだ。彼女は狂つていない。アーロンが知る計算づくりの理久そのままだ。

「ほんと、光の神さまは極悪だよ。こっちじやどうだか知らんが、私がもといた世界じゃ拉致は犯罪だ。カミサマが犯罪を奨励するんだから終わつてる。だから私も正義に乗つ取つた行動を取るのは止めた。そんだけの話さ」

肩をすくめながら語る姿がどこか痛々しい。ふと奇妙な予感に駆られる。まさか、理久は……

「リック殿、あなたは……」

「そんで、手始めに厄介そうなのから懐柔に取り掛かつたってわけ。由梨はお前と戦いたくないって言うし、お前の魔術は戦力になりそうだからな」

「リック殿！」

「……何だよ、アーロン。話はまだ終わっちゃいない」

不機嫌そうなそぶりで……そつ、そぶりで……理久はため息をついた。気づかれてくないことがあるのか、視線を合わせようとはしない。アーロンは確信した。

「あなたは……死ぬつもりですね？」

復讐など馬鹿馬鹿しい。労力の無駄だ。そう断言していた二人がこのような行動に出た。もちろん、きっかけは森の火事だろう。後でわかつたことだが森を焼き払ったのは王だ。疑心暗鬼に駆られた王がわかりやすい脅威であるマレビトを消そうとしたものだった。二人が宗旨替えしてもおかしくはない。

問題は、二人の立場の違いだ。理久は体質のこともあって表に出ることは無かつた。対外的なことはいつも由梨の役目だった。それなのに、理久が指揮官で由梨は兵士だ。その違いが見逃せなかつた。「根回しはいろいろしてある。反乱が鎮圧されてもそれはそれでいいんだよ。要はマレビトの実情を知らしめて、召喚なんてもつてのほかつて結論になつてくれれば大成功だ。……正直、スコルを制圧しちまたのは計算外だつたし

「ですが、反乱を先導したものは死罪です」

「だから私が指揮官やつてんだろうが。世論はそのへん得意な奴がいじつてる。由梨も神子姫も仲間たちも……世間がマレビトに同情的になるようにな。けじめで指揮官は殺されるだろうさ。でも断頭

台に立つのは猫だ。威信がた落ちだね

「リック 殿……」

「ああ、その通りだよアーロン。死ぬつもりだ。それとも、私を生かしたいのか？」

「当たり前です……」

残酷だ。確かに召喚魔法を命じたのは国の上層部だ。歴史はマレビト迫害を是とする風潮を作った。だが、理久から本来の姿を奪つたのはアーロンだ。せめて、どんな手段でもいいから 幸福であつて欲しいと願つていたのだ。

アーロンの表情から何かを汲み取つたのか、アーロンを縛り付ける縄が切り落とされた。細切れになつた縄を燃やして灰になると、理久は不敵な笑みでアーロンを見据えた。

「……なら、私に忠誠を誓えよアーロン。この騒乱を長引かせ、マレビトの悲しみと恐ろしさをこの世界に刻み込んでみせろ」

皆既日食を思わせる瞳がアーロンを射抜く。縛る縄から解き放たれたのに、それよりも強固な何かに捕らわれたような錯覚。理久は不敵な笑みでアーロンを見据えた。

「落とし前、つけさせてやるよ」

アーロンの口からため息が漏れる。ようやく気がついた。一人を……理久を探していたのは責任感からでも心配からでもない。ただ、目の前から消えることが怖ろしかつただけだ。初めて彼女の本来の姿を見たときに何よりも目を引いたのは、少年めいた体躯でも、その割には白く滑らかな肌でもない。強い光を宿したその眼差しだつたのだ。その眼差しが失われる？　冗談ではない！

「だが、お前は生き延びろ。神子姫と由梨と……当然仲間も逃げ延びさせる」

「……承知しました、わが主。これよりわたくしの命はあなたのもののです」

魔力を補強する為の指輪がはめられた手を取つて口付ける。空に
なりかけていた魔力を充填して忠誠の意志を現した。

「大陸屈指の魔術師が使い魔に従属する、ねえ。なかなか皮肉が効
いてる」

愉快そうに笑うこの少女を生き延びさせたいと願う。たしか、ま
だ二十歳にもなっていないのだ。信念に殉じて死ぬには若すぎる。

「そういうやスコルつて名前は私が考えたんだけどさ。ある地方の神
話で、世界の終末に太陽を食らつ獣の名前なんだよ。そんなもの食
つて焼け死なないのかねえ？」

軍議や救護室代わりの広間で見せる冷静な姿とはかけ離れた発言
だ。指揮官の皮を被つた悲しき獣は、やがて来る結末を派手に飾る
ことだけを考えている。仲間を逃げ延びさせる準備だけは整えなが
ら。

「由梨と姫にはばらすなよ。止められたら事態がややこしくなる」
だが、死なせる気はない。こんな悲しい存在を産むなら、そんな
世界は根底から変えられるべきだ。

「裏切るなよ、アーロン」

「最期までお供しますよ、わが主」

万感の想いをこめて、主の手に忠誠の口付けを贈った。

光を覗きつつ（後書き）

『復讐スルハ』とは似て非なる設定です

鍊猫アーリーデイズ（前書き）

由梨と理久が年齢一ヶタのころの話。一人は母親同士が姉妹の従姉妹です。

「理久、いるかー」

「ノックから出直せばか兄貴」

理久は兄の額めがけて定規を投げつけた。

理久は四人兄弟の末っ子で、兄が三人いる。だが妹として可愛がられた記憶はほとんどない。兄たちは理久を弟のように扱っているのだ。普段は大して不満とは思わないが、九歳になる妹の部屋にノックなしで入る次兄・颯のデリカシーの無さだけは我慢ならなかつた。

「ダメだよ、理久。せめて消しゴムにしてあげなつて」

「由梨ちゃんはやさしいな」。可愛い妹を持つて幸せだわ、俺」
どうやら一人で宿題をしていたのだろう。理久と由梨はそれぞれ違う教科書とノートを広げていた。ここ数日、由梨は母親が出張中なので冬沢家で寝泊まりしている。

「由梨はいとこだろうが。妹は私だ」
「馬鹿言え。妹ってのは可愛いのが絶対条件だ」

理久の抗議に颯は平然と切り返す。実際、由梨は可愛い部類と言えた。クオーターの為か全体的に色素が薄く、顔もどこか日本人離れしている。さらに幼いころに父親と死別している境遇もあり、理

久の兄たちは由梨を溺愛していた。ちなみに理久たちもクオーターだが、肌が白いことと手足が長いことを除けばみごとに日本人的外見だ。

「それで、どうかしたの颯お兄ちゃん。部活お休み？」

「ああ、そうだった。実は一人に意見を聞きたいんだよ。由梨ちゃんの意見なら絶対役に立つし、理久は……まあ、何かの間違いだとは思つが、一応は女だ。参考にならないこともないだろ」

「……定規じやなくてコンパスにしどけばよかつた」

意見と言つのは、先日できた彼女との初デートコースについてだつた。颯は非常に惚れっぽく、常にだれかに恋をしていると言つても過言ではない。理久たち兄妹はその性質をあきれた目で見ているが、恋バナ大好きな由梨は大乗り気で意見を出した。

「あたしは、映画とかがいいかなー」

「映画か。最近は何かやつてたか？」

颯はノートの切れ端（理久のノートから無断でちぎつた）に（理久のペンケースから無断拝借したペンで）『映画』と書き込み、大きく丸で囲つた。理久は思い出したようにぼそつと呟いた。

「駅向こうの文芸専門の映画館で面白そうなのをやつてたつけ。このあいだ、図書館で原作読んでみた」

「駅向こうー、いいんじやないかな。最近、駅向こうにケーキが美味しいカフェができたらしいし」

「だが文芸専門か……いや、知的アピールするのにはいいかもな。何ていうタイトルだ？」

「『人形の家』」

由を輝かせる由梨に手ごたえありと感じたのだろう。ノートに切れ端に『駅向こうの映画館』『最近できたカフェ』『人形の家』と

加えていく。

「わ、なんかファンタジーな感じ」

「どんなあらすじなんだ？ 簡単に頬む」

「由那に可愛がられるだけだった女が、自立するために由那と家庭を捨てる話」

空気が凍りついた。どう考へても高校生の、しかも初デートに見る内容ではない。もちろん理久もそれはわかっている。単なる嫌がらせだ。小学生が読む本ではないというツッコミは不可だ。理久は暇さえあれば本を読むタイプで、ジャンル問わず。年齢制限さえなければ何でも読む。

「……え、えーっと、映画だけがデートじゃないし。そういうえば理久の理想のデートコースはどんな感じ？」

「私？ ……小学生だぞ。そんなの考えたことない」

内心冷や汗を出しつつ由梨が軌道修正を試みるも、理久の反応は冷たい。基本的に恋愛に興味が無い性格なのだ。それを知っているからか、颯も疑わしそうな目で理久を見ていた。

「でも、出かけてみたい場所とかあるでしょ？ そんなのでいいから」

「出かけたい……来月、博物館である特別展に行こうかなとは思つてゐる」

「妹名乗るならもつと可愛いアイディアの一つも出せー！」

由梨のフォローに、ようやく理久が意見らしきものを出す。可愛げも色気もないそのプランにさすがに我慢がならなかつたらしい。颯は理久の眉間に指を突き付けた。

「じゃあ、美術館でやつてるピカソの特別展か、大学博物館の化石展。そういうえば今度、三十年に一度の御開帳するお寺があつたつか。あとは……」

映画の件とは反対に、こちらは理久としてはかなり本気の意見で

ある。家族旅行の時も遊園地より博物館や旧跡に行きたがる、とこ
とん何かがずれた子供。それが理久である。

「どうしてもそっちなんだ。もつとこつ、可愛い感じのない？」

「なら水族館。先週から深海魚の特別展やつてるんだよ」
しぶしぶといった感じで言つたそれに、よつやく颯が安堵のため
息をついた。

「なんだ、お前もやればできるじゃねえか！ よつしゃ、それが無
難だろ。イルカショーもやつてるしな」

「うんうん。あそこ、お土産も可愛いのいっぱいだもんね。そうし
なよ、お兄ちゃん」

「由梨ちゃんも賛成なら大丈夫だる。 そんじや、邪魔したな」
どうやら水族館で決定らしい。颯は鼻歌交じりに部屋を出て行つ
た。その背中を理久は冷ややかに、由梨は期待をこめた目で見送つ
た。

「颯おにいちゃん、うまくいくといいねー」

「一ヶ月もたない方に来月の小遣い全部」

「理久ひどい……」

しかし、理久は過去の経験から自分の予測が当たると確信してい
た。

さて、結果だが。デート 자체はうまくいったらしかつた。しかし
二人は一週間ともたなかつた。なんでも彼女の方が転校生に一目ぼ
れしたのだそうだ。理久はそのせいで盛大なやつあたりを喰らい、
『恋愛とはハタ迷惑でばかばしいものだ』と魂に刻み込むことに
なつた。

鍊猫アーリー・デイズ・七夕変（前書き）

スペシャルサンクス：小説家になろう！チャットルームの方々

練つた小麦粉をねじりながら、由梨は「機嫌で歌を唄つている。

「……スワンが翼を広げます……わたりなさい、わたりなさい……」

「天の川に橋をかけるのは白鳥じゃない。かささぎだ」

ねじつて形を整えたものを熱した油に放り込みつつ、理久は冷静にコメントした。

今日は七夕。夕方には冬沢家と春國家が両方集まって（といつても、春国家は由梨と由梨の母だけだが）宴会をするのが通例だ。今作つてているのは索餅。そうめんの先祖となつた揚げ菓子だ。理久と由梨の祖母が日本びいきの西洋人で、その影響から冬沢家も春国家も行事食に関しては非常に厳しかつた。料理はさほど得意ではないと自称する理久も、実は正月のおせち料理を全て手作りできたりする。

「もー、理久つてばロマンなさすき。夏の大三角は白鳥座なんだからいいじゃん」

「夏の大三角はヨーロッパ。七夕伝説は中国」「つまんないことばっかり気にしてー」

不満げに言いながらも由梨は手を止めない。ただねじるのに飽きたらしく、既にねじつてあるものをつなげたり輪にしたりして遊んでいた。

「ねじり終わつたなら代わつてくれ。いい加減暑い」

まだ始まつたばかりとはいえ、夏だ。理久は同時進行で天ぶらも揚げている。ひたすら暑い。既に汗だくだった。

「ん、いこよー」

応えて立ち上がるうとすると、リビングでそれぞれに準備をしていた兄たちから野次が飛んできた。

「却下だ、理久！」

「万が一、由梨ちゃんがやけどでもしたらどうするんだ！」

「心頭滅却すればこの程度どうしたことないだろ！」

言葉と共に削りかけのかつお節まで飛んでくる。確かめんつゆの準備をしていたのは……

「もつたいないことするな、海斗兄貴！ これ、枕崎の一級品だつて言つたろうが！」

当たらずには床に落ちたかつお節をいつたん洗つて投げ返す。捨てるなどともつたいたいことはしない。なんといっても最高級品である。

どうやら誰かに当たつたらしい。何かがぶつかる音とマヌケな声が同時に聞こえてきた。

本日のメニューはざわるひざわるわば、さらしなうめん。炭水化物ばかりでは体に悪いので、鳥のから揚げや夏野菜の天ぷら、薬味各種も急りない。デザートには索餅とゼリーとスイカ。

そばは長兄作、うどんとそうめんは次兄、めんつゆは三兄だ。デザートは由梨の担当で、揚げ物全般が理久の担当。そば打ち以外はくじ引きで決めたので仕方がないとは言え、これほどの貧乏くじもめつたに無いと理久は思つている。

既にできあがっている兄たちは放つておいて、由梨と理久は縁側に座る。理久たちの両親は海外転勤中、由梨の母は仕事。そのため宴会は子供達だけで行われた。子供と言つても、男性陣は全員酒が呑める年齢だ。

既にできあがっている兄たちは放つておいて、由梨と理久は縁側

に陣取つて笠を眺めながらデザートをつまんでいた。

「晴れてよかつたねー」

藍色の地に朝顔の柄が印象的な浴衣に着替えた由梨はにこにこ笑つてゼリーをほおばる。サイダーを使つたゼリーは爽やかな触感が特徴だ。

「叔母さん、残念だつたな。今日は夜勤だつけ?」

「うん、写真撮つてきてつて頼まれちゃつた。だから理久も浴衣着て欲しかつたのに」

「仕方ないだろ、サイズが合わなかつたんだから」

由梨の浴衣は母から譲り受けたものだ。理久も母譲りのものがあるにはあるのだが、サイズが合わなかつた。仕立て直すには手間がかかるということで、兄から強奪した作務衣姿だ。

「……今から作れば、夏祭りには間に合つよね」

「着ないからな」

あつさり断つてスイカを手に取つた。索餅は兄たちがつまみとして消費してしまつた。塩味にアレンジしたことがこんなところで仇になるとは。理久も由梨も一つずつしか食べていなかつた。あれだけ暑い思いをしたというのに、である。

風が吹く。傍らに置かれた蚊取り線香から灰が飛び、理久の手にかかつた。

「あちつ！」

「大丈夫？」

「……多分な」

手を振つて灰を落とし、様子を見る。赤くなつていない。たいしたことはないだろう。忌々しげに蚊取り線香をにらんだ。罪がないことはわかつてゐるが。

「そういえば、理久は短冊になんて書いたの?」

「……平穏」

「平和じゃなくて？」

「平穏。平和は世界レベルだ。私が願うことじゃない。だいたい、由梨の短冊も似たようなものだろ」

一口かじつたスイカはみずみずしいが甘みは少ない。熟していないと言えるが、理久は甘いものが好物というわけでもないのでこのくらいがちょうどいい。

笹が風に揺れる音に由梨は細め、由梨は見るともなしに短冊を見た。『平穏』『彼女』『健康』『免許』……やたら簡潔な内容は理久たち兄妹のものだろう。それらと並んで風に揺れる由梨の短冊は『毎日のんびり過ごせますように』だ。

「まあねー。でも、誰でも持つてる願いじゃない？」

「違いない」

口の中でよりわけた種を庭に吐き出す。行儀が悪いと言つて由梨が理久を小突いた。

結局、理久が由梨の浴衣を着ることはなかつた。

ほどなくして、一人は異世界に問答無用で引きずり込まれることになる。

鍊猫アーリー・デイズ・七夕変（後書き）

索餅……小麦粉を練つたものを繩状にねじって揚げた菓子。そうめんの祖先
行事食……おせちなどの、季節ごとに食べる料理。七夕の場合にはそ
うめんがメジャー
由梨が歌っていた歌……タイトルは『スワーンのつばさ』
枕崎……高級かつお節の産地

「メティ版のあとがわっぽいもの（前書き）

『錬金術士と使い魔な猫』 第1章ノードのあとがわっぽいものですね。
いつも以上に血口満足。

「メティ版のあとがきっぽいもの

【鍊金術士と『使い魔』の日常】

女の子が猫を隣に座らせて店番する図。ある日そんなビジュンが
思い浮かびました。それが鍊猫の始まりです。

この女の子はどんな性格だろ？ 隣の猫は？ ……色々連想して
いくのは結構楽しかったです。名前は最後まで悩みました。『西洋
風でも日本風でも通じる名前』を鍵に探し、最終的に女の子には友
人の名前をもじったものを与え、黒猫には私に似た性質を与えるこ
とに。

由梨も理久も趣味嗜好はモデルとなつた人物の影響をかなり受け
ています。

【私が猫になつたわけ／あたしと異世界／残酷な報告】

すつげえ長い導入部です。反省します。

これでも結構削つたんですけどね。王様とどんなやり取りがあつ
たとか。

ちなみに王様は大昔のRPGに出てくる王様を連想してくれれば
大体あつてます。ただ、あんまり統治者には向いておらず、アーロ
ンを始めとした官僚はすつじく苦労しています。

【鍊金術士の舞台裏／かくして流行は生まれた】

理久と由梨の役割を書いただけのお話です。

作中でも書きましたが、理久は魔力がミジンコ並み、由梨は魔法
の理論がからつきしです。たとえるなら、理久は選手にはなれない
けどコーチにはなれるタイプ。由梨はホームランを量産できるけど
監督やコーチには絶対になれないタイプです。

『Jの話から登場するお嬢様は李陽さんの『継続的のトラブルを持ちこむキャラなんてどうでしよう』といつすばらしい提案から生まれた子です。とりあえず猪突猛進系と決めて作っていきました。

余談ですが、『かくして流行は生まれた』は、某育成シミュレーーションのイベント名から拝借しました。『舌先三寸でトラブルを回避する』コンセプトだけは一致します。

【恋愛話は似合わない】

とちくらつて『恋愛要素を入れよ』なんて考えなきゃよかつた。

【宛てのない手紙】

裏設定をちょっとのぞかせたかつただけの回です。

由梨はまだ赤ちゃんの時に父親と死別しています。それを不憫がつた理久の母（由梨の母の姉に当たる）が『由梨ちゃんをかわいがるのよ』と息子（理久の兄たち）に言つたのがそもそもの始まり。ラテン系の祖母そつくりに育つて美少女な従妹と、男だか女だかわからぬ無愛想妹。どちらをかわいがるかつて言えば、ねえ？

【故郷の味再現プロジェクト】

『サイラ』は『rice』を並べ替えて適当に読んだものです。そばはうどんよりも難しそうてのは主觀です。うちの父が挫折した速さから割り出しました。

私は一応『ユー』ーク生まれなんですが、きっとぱり和食党です。母が意識して日本文化に触れさせてたからつてのもあります。食べなれたものがどこにもないつてのは結構なストレスですよね

とこうお話を。

【惚れ薬事件】

『かくして流行は生まれた』のもとになつたゲームのイベントに着想を得ました。鍵となるアイテムだけが共通しており、ストーリーは完璧に別物ですが。

そういうえば、マタタビってメスや子猫には効かないらしいですね。すると追い回していたのはオスの成猫ばかりか。これが一生に一度あるというモテ期というやつでしょうか。

【鍊金術士体験学習】

由梨たちを取り巻く環境をちょっと出したくて書いた話です。

アーロンは次男で、兄が一人という設定です。そのお兄さんが領主さま。悪党でも悪人でもありませんが、基本的に辛辣な人です。

理久の狩りのシーンはかなり簡単に書いていますが、慣れるまでは苦労していたはずです。描写する必要が無いと思ったので省きましたが、狩りの後の祈りは、市場での情報収集で得たことのようです。

これを書くにあたつて、某動画サイトでウサギをさばく動画を見ました。案外簡単そうにさばいていたけど、実際やるとなると難しいんだろうなあ。

【空を自由に飛ぶ方法】

『鍊金術士』という言葉が出てくるゲームの三作目が元ネタです。

元ネタの成功バージョンが『空飛ぶ絨毯』、失敗バージョンが『空飛ぶ袋』です。なかなか面白いムービーつきのイベントです。実際には失敗作ですが、空飛ぶ袋が開発されたら荷物運びが便利なんじやないかという指摘がきました。確かにそうかも。

空飛ぶ絨毯で『テートを楽しむアラジンとジャスミン姫はどうして吹っ飛ばされなかつたのか、ひそかに疑問です。

【石の秘密と初恋と】

この世界には石油も石炭も火薬もない。これが大前提です。昔読んだ本に書いてあつたんですが、魔法にせよ技術にせよ『そくなつた理由が説明できること』って重要なんだそうです。

この世界だと『魔法があるから必要だと思わなかつた』に尽きます。探しれば石炭も石油もあります。やろうと思えば火薬だって精製できます。でも魔法があるし今のところ困つてないからいいか、と。遠い未来、この世界にも火薬ができるかもしません。けれどそれは由梨たちの知つたことじやないんです。

だつて、由梨たちはしょせん異邦人なんですから。

【ホムンクルス誕生?】

仮タイトルは『ホムンピクルスがホムンタルス』でした。どっちも没にしました。

ホムンクルスの材料は人間の精子 + 馬の糞 + 数種類のハーブ。それらを特殊なフラスコに入れて密閉、絶えず人間の生き血を与えて40日間発酵させるとできるそうです。

それをトンデモ理論でアレンジした結果、あんなのが生まれました。正直かなり後悔します。もっとあほな話にすればよかったです。

【闇市／ゴーレム】

そういうえばファンタジーなのに戦わせてないなと思つて書いた話です。アクションシーンに苦労したことだけが印象に残つてます。

「実質的にゴーレムがラスボス？」と言つた感想をいただきましたが、だいたい合つてます。これから先も絶望的な敵なんて出でこないまま、由梨たちは異世界に骨を埋めます。

これはしょせんコメディです。ギャグです。某ライトノベルでは縦断でも死なない用務員が出てきますが、それだつて世界の命運なんてかかつてません。

世界を搖るがす可能性を秘めながら、自ら意識的にそれを放棄する。

それが由梨と理久の生き方です。

【ヒピローグ】

だいたい千年後くらいというイメージです。

由梨たちがどんな発明をしたのか、何を望み何を望まなかつたのか。そんなことを簡単にまとめました。

すこく余談ですが、生徒の苗字は指名した順番に頭文字がABCです。ちょっとした小ネタです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9786t/>

錬金術士と使い魔な猫・番外変

2011年9月28日17時57分発行